

「自分たちのやり方」があること



独特の仕事場

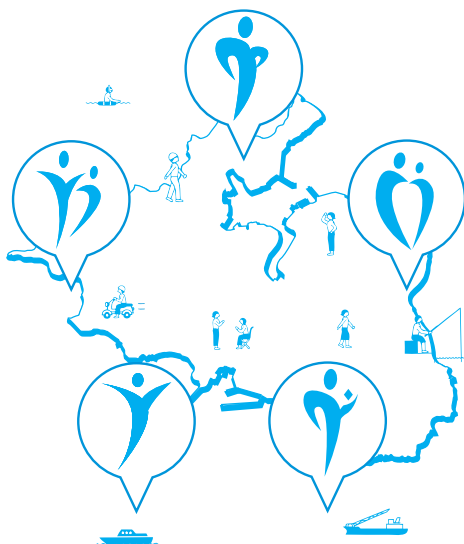


こだわりの仕事道具



熟練の仕事の業

いえしまの人たちは、それぞれの仕事場で「自分たちのやり方」を持っている。仕事の中に趣味を取り入れること、本物にこだわること、何でも自分たちで工夫すること、臨機応変に作業をすること、新しいことにチャレンジすること、とことん楽しむこと、自分たちでルールを決めること。仕事に対するいえしまの人たちの姿勢はとてもしっかりよく、これからのいえしまのまちづくりにも通じることだと思った。一人ではできないことは一人でやる、一人で難しいことは何人かで協力してやる、大勢でなくてはできないことはみんなで力を合わせてやる。いえしまではそんな形で徐々にまちづくりが進められていくのだろうと思った。仕事場で見られた「誇り」や「たのしみ」、「ふれあい」、「こだわり」、「愛情」はまちづくりにおいても大事なキーワードになっていくのだろう。



「いえしまライフワーカー」によるまちづくり

生活に根ざした価値を実感できる島へ

「探られる島」プロジェクト2009は、平成21年の秋に家島地区での2泊3日のフィールドワークと大阪での3日間の会議を合わせた計6日間のワークショップ企画である。全国から多様な専門分野を持つ若者が「いえしまの職場を探る」をテーマに取材を行い、ポスターを製作するとともに展示発表会を実施した。また、参加メンバーで一つのコンセプトに沿って冊子をまとめた。それがこの「探られる島」プロジェクトブック05だ。プロジェクトの中では「今後のいえしま」についてもみんなで話し合った。僕らが今回の取組を通じて気づいたことは、いえしまの職場は島の人たちの生活と密接した魅力的な場所であり、都市部ではなかなか得ることができない価値を実感できる場であることだった。だからいえしまでは、今後むやみに都市化された無機質な仕事環境を整備する必要はない、と僕らは考えている。島に訪れた人たちとの交流の中で、いえしまの仕事の価値を発信し、生活に根ざしたその魅力を伝えていってほしいと思う。今回で5回目となった「探られる島」プロジェクトは一旦の区切りを迎えることになった。生活観がこじみ出た屋外空間、刺激的な産業の風景、衝撃的なおもてなし、お金を使わずに楽しめる海辺、そして様々な価値を実感できる職場。僕らがこの5年間のフィールドワークの結果から議論・考察した内容は、いえしまの一面を捉えているに過ぎないのかもしれない。いえしまにはまだまだ隠された魅力があるはずだ。だから僕らは新しい仲間を連れて、またいつか、いえしまを探りに訪れたいと思う。



家島本島に上陸



ポスター製作における講師からのレクチャー



いえしまの人たちとのお別れ